

ハートフル

三木市子どもいじめ防止センターだより

～きこえる いつしょに考えよう～

37号

令和7年12月発行

「心の銀行」にいっぱい優しさの貯金を

元小学校教員 仲島正教

私の家から少し歩くと銀行があります。その向こうに、もう一つ銀行が見えています。

「街の銀行」はたくさんの人人が利用し、たくさんの人の生活を支えています。



そんな大切な銀行は、実は自分の心の中にもあるのです。それを「心の銀行」と言います。「心の銀行」は「お金」ではなく「優しさ」を貯金する銀行です。自分の「心の銀行」に「優しさ」の貯金がいっぱい増えると「優しい人」になっていきます。

「優しい人」ってどんな人のことを言うのでしょうか。私は子どもたちにこう教えました。

「『優しい』という漢字は『人(にんべん)』に『憂い』と書くけれど、意味は、憂いのある人の横に、人が寄り添うということなんだよ。つらいなあ、悲しいなあと感じることを『憂い』といふんだけど、そんな時に『人』がそばにきてくれたらうれしいだろ、元気が出るだろ。これが『優しい』ということなんだよ」



あなたが小さい時、いっぱい泣いたでしょ。

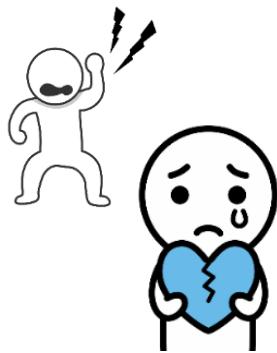


そんな時、おうちの人がそばにきて面倒をみてくれたでしょ。「よしよし」と抱っこしてくれたでしょ。あなたのそばに寄り添って「優しさ」の貯金をしてくれたおかげであなたは大きくなってきたのです。学校で嫌なことがあった時、友だちが励ましてくれたでしょ。先生が助けてくれたでしょ。そんな「優しさ」が「心の銀行」にいっぱい貯金されて、あなたは成長してきたのです。

「心の銀行」にいっぱい優しさの貯金があると「優しい人」になりますが、それだけではありません。これから的人生で苦しいことに出会った時、優しさの貯金のある人は自分の力で乗り越えていきます。

周りにしんどい人がいれば、自分の貯金を分けてくれます。





でも優しさの貯金がない人は、苦しい時はすぐにあきらめてしまうし、周りの人を助けてくれません。

それどころか周りの人にひどいことを言うのです。

友だちをいじめる人の「心の銀行」には、優しさの貯金がありません。

もしかしたら借金があるのかもしれません。だからいじめてしまうのです。

いじめをなくすにはどうしたらいいでしょうか。

もちろん道徳の勉強もしっかりしてほしいのですが、「心の銀行」にいっぱい優しさの貯金をすることがいじめ防止になります。

クラスの中に、いじめをする友だちがいたら、まずは注意してあげてください。次に優しくしてあげてください。

いじめをする子になんか優しくできない、と思うかもしれませんのが、不思議なことに優しくするといじめはなくなっていくのです。

大人の皆さん、子どもたちをいっぱい愛してあげてください。

見守り、応援してあげてください。

そんな貯金のある子は、友だちをけっしていじめたりしませんから。



「街の銀行」の貯金を無駄遣いすると生活が苦しくなりますが、「心の銀行」の貯金を使うと周りが温かくなります。



「心の銀行」の貯金に無駄遣いはないのです。
使えば使うほど優しい人が増えていくのです。
使えば使うほど笑顔が広がっていくのです。



仲島 正教(なかじま まさのり)

【プロフィール】

西宮市で小学校教師を 21 年間、指導主事を 5 年間務めた後に 48 歳で退職。現在は教育サポーターとして全国各地で授業づくり・学級づくり、人権教育、子育てなどの講演を行う。講演回数は 3500 回を超える。

2016 年西宮市教育功労者表彰。著書「教師力を磨く」など



センターには、
いじめに関する本など
があります。気軽に
問い合わせください。



三木市子どもいじめ防止センター
電話: 0794-82-8110

相談日 月曜日～金曜日 9:00～17:00
ijime_boshicenter@city.miki.lg.jp

